

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームあすなろ I	評価実施年月日	平成20年8月25日
評価実施構成員氏名	瀧川 貴代美 富士本 恵 伊藤 由美子		
記録者氏名	瀧川 貴代美	記録年月日	平成20年8月25日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>その人らしく生きるとは、その人の個性と尊厳を重んじる事と理解し、日頃より利用者との会話をするよう心がけ、おしきせの介護にならないよう努めている。地域での生活については、周囲の環境が地域住民、民家が少ないということもあるので、病院入院者等を住民と考え、敷地内の庭園の散策等を通じ他者との交流を図り、その利用者の社会性を尊重するよう努めている。事業所の理念に基づき、ケア目標を作成している。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>朝の申し送り時に理念を全員で復唱している。スタッフルーム内に理念、ケア目標を掲示し、スタッフ一人一人が常に意識するように努めている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>理念には抽象的な表現を避け、わかりやすい言葉を選んでいる。理念は玄関に掲示し、ケア目標は利用者、家族がいつでも目につくようにリビング内に掲示している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣に住宅がない事もあり、日常的な交流は困難だが、町内にある小学校行事(運動会、学芸会など)や隣接する病院・施設行事への参加をしている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>樽前小学校の運動会や他施設の行事に積極的に参加している。また、小学校への協力として、ホーム内において廃品回収への働きかけを行っている。(新聞、リングブルなど) 今後は婦人会、老人会と、ホームの清掃活動などを検討中である。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>ホームヘルパー2級及び看護学校の実習施設としても認知症のケアと理解に努めている。又、認知症キャラバンメイトとして講演も行っている。運営推進会議で話し合っており、婦人部で検討中である。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価を日常の介護のあり方のふり返りと考えスタッフ全員に記入してもらう。外部評価の評価を活かし、できることから改善に取り組んでいる。昨年は、トイレ内手摺の設置、ケア目標作成などに取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2か月に1回行い、サービス向上に活かしている。現在までに9回開催しており、家族からの協力も増え、町内会行事への参加も定着しつつある。また、家族が介護等について日頃感じている事などの意見交流の場としての役割や介護についての理解を深めて頂く機会となっている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>今年度管理者が、キャラバンメイトとしての活動開始し、より市との連携を深めている。運営推進会議に苫小牧市介護保険課職員の出席をいただいております。グループホームの実状を理解して頂く場として考えている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>当施設は精神科を標榜する医療法人が設置者であり、成年後見制度等については触れる機会も多く、精通した職員もおり研修会を開き学習しており、相談があった場合に対応できるようにしている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>拘束や虐待については、病院の老人部門看護部副部長が講師として定期的に研修会を開催し、肉体的な暴力、虐待ばかりでなく、言葉の虐待、暴力についても周知し、スタッフの認識を高め、その防止に努めている。また、施設外の研修にも参加し、研修内容について参加しなかった職員にも伝達している。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>施設長が説明を行い、理解・納得を図っている。(利用料金・重度化及び看取りについての指針、医療連携について等)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情に対する意見箱を設置している。 苦情発生時に対処する苦情処理委員会を設置している。 又、面会時などでいただいた意見については、スタッフ間で話し合い、運営の参考にしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	2か月に1回ペースで個人向けおたよりを出している。 利用者にとって家族の面会は非常に喜ばれる事であり、施設からも声がけをし、極力面会に来ていただき、生活状況を見ていただく事を第一としている。 面会時には、日常の様子を報告し、面会に来られない場合は電話やお便りで報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情ボックスを設置している。不満・苦情はスタッフが気づかないよりよい介護を行うためのアドバイスと考えており、職員にもその旨周知理解を図り、家族に偏見を持たせないようにしている。 面会時などに面談の場を設け要望・不満等がないか聞くようにしており、記録した内容はスタッフ間で把握している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議・全体会議にて機会を設けている。又、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事参加時や買い物・受診時などにスタッフの勤務調整を行っている。 利用者に対する処遇を厚くするため、室内の清掃等の間接処遇に対し別途職員を雇用している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	なじみの大切さを伝え、スタッフ会議の開催により、スタッフ間の連携もとれ、離職者が減少している。直接処置の難しいケースについてはケースカンファレンスを開き、問題解決の場とし、職員が一人で抱え込まないように注意を払っている。 現在、産休にて休職者がいるが、昨年よりスタッフの異動、離職などなじみの大切さをスタッフ間で共有している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>開設者である医療法人が認知症に関する専門病院であり充分教育を受け、また講師としても活動している職員がおり、折に触れ特に認知症に対するスタッフ教育に努めている。また、年間を通しての研修計画も作成している。</p> <p>管理者として必要な研修の受講及び介護福祉士を目指すことが出来るように、制度や研修の機会を紹介する。又、研修報告については、全職員に周知するようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>北海道グループホーム協議会、苫小牧グループホーム連絡会の研修会などに出席し交流や情報を聞ける機会には積極的に参加し、サービスの質を向上させている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>業務上のストレスについては、自分のしている仕事が理解されない、評価されない場合が多く、これらのストレスを抱え込まないよう日常的に話し合いの場を持つようにし、その場で解決できない時には、スタッフ会議などで話し合い、お互いに共有し理解を深めるよう努めている。又、病院親睦会による旅行、レクリエーション参加し、他部署との交流を持っている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員がやりがいや向上心が低下すると離職につながっていくものと考え、スタッフのモチベーションが下がらないよう状況判断のためにも会話する事を努めている。</p> <p>運営委員会でスタッフ協議のもと運営されており、スタッフの意見が反映されている。勤務状況は管理者と法人本部が把握しており、必要時管理者及び法人本部が調整を行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居相談時から家族、ご本人及び必要に応じて関係機関からの情報を面談を中心にしている。また入居の際には必ず本人面談を行うようにして当事者の状況もしっかり把握するよう心がけている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>個人からの相談申し込みについては面談を中心にさせていただき、家族が入居を希望する理由・介護について望むもの等を聞き、グループホームありきの考え方ではなく、利用者にとり何が最良かを考えるようにしている。その時点で入居の可能な見込みがつかない場合には、他のグループホーム又は施設等の一覧表等をお渡ししています。また、設置者の医療法人は老人性認知症センターの指定を受けており独自に高齢者相談室も開設しているため、グループホームで対応が難しいケースについては担当者を紹介できる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	開設者の医療機関には、指定を受けた認知症疾患センター及び高齢者相談室があり専門の職員が常駐しております。必要とされている支援を見極め、必要に応じて前記部署への相談を含め対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本院の認知症デイケアの利用者の入居については同一敷地内ということもあり、環境の変化も少ないと思われる。また、入居前の本人との面談及びホームの見学をすすめ、徐々になじめるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に生活する場とし、利用者の話に耳を傾け、一緒に行える事に対し喜びを共有している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時などに日常の様子を伝え、時には家族の不安や心配事を聞き、利用者、家族との関係が良好に保てるように支援している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族からの情報をもとによりよい関係を継続できるように面会、行事参加を呼びかけ、家族との絆が途絶えないように努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	なじみの場所へ行く事は困難だが、なじみの人との交流は途絶えないように面会、行事参加などの働きかけを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	スタッフが関わることで一緒に家事作業、畑仕事、散歩などを行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院以外で他の事業所に移った等の事例はないが、入院などによる一時的な退居の際には、十分な話し合い(病院関係者や家族)を持った上で一日も早い再入居への支援を行っている。また、スタッフとのなじみの関係が途絶えないよう面会の回数を増やすようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者が話す内容が困難なことであっても否定せず、まずは受け取め、その上でご本人が納得できる理由をお話している。日々の生活で表情・口調などからも本人の思いの把握に努め、利用者本位で検討している。(センター方式利用)又、意見の疎通が困難ケースや自分の思いを明確に出来ない場合については、一人のスタッフが結論を出さずに職員ミーティング等を通して判断するようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に家族の方にご本人の生活歴(ライフヒストリー)を記入していただいております。生活習慣はできるだけ尊重するよう努めている。また、ライフヒストリーの内容を基に回想を行い、社会性が失われないように努めている。(センター方式 A~Bシート使用)		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活アセスメントシートに日常のことを記録し、スタッフ間で把握している。食事や入浴についてもご本人のペースを大事にしている。問題が起きた時には、その都度カンファレンスを実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	先に家族との相談の機会を設けて、スタッフ会議を行っている。入居後、アセスメント、モニタリング、カンファレンスを基に、その方の暮らしぶりを尊重した介護計画を立案するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	家族と相談し、現状に即した計画を作成している。見直しは6カ月のモニタリングを基準としているが、ADLの状態等変化が生じた時点でその都度見直しを行い、新たな計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活アセスメントシートに記入している。毎日の記録とケアカンファレンスにより職員間において情報の共有を行っている。ケアカンファレンスや処遇改善等については、職員間だけで行うと自己都合的な考え方で流される危険性も含んでいるので、定期的にグループホーム外の法人本部職員を交えたミーティング等も行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院受診時などに家族が付き添えない時はスタッフが対応している。開設者医療法人における入院については、馴染みの関係が損なわれないよう早期退院に努めるようにし、また過去においては末期癌の入院者に対し医療連携を生かしホーム内での生活維持に努めた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の資源活用として、警察、消防、文化、教育機関等の連絡については、現実問題として一施設の要請で事が運ぶものではなく、地域としてのネットワークづくり、支援体制の整備が望まれるところである。当施設は病院で開講しているヘルパー2級取得講座の実施施設でもあり、実習生との交わりの中で、接点を見い出している。今年3月にはオカリナサークルによる演奏会(ボランティア)を開催している。今後も医師会看護学生の実習、ヘルパー2級取得講座の実習施設として受入を予定している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	開設者法人が苫小牧グループホーム連絡会の事務局を行っており、また管理者が高齢者等地域ケアを進める会に加入していることにより、これらの機関を通し様々なケースにおいて支援する体制ができています。今後は管理者(ケアマネ)のケアマネ連絡会への加入を予定している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	系列法人が地域包括支援センターを開設している事もあり密な連携、情報交換を可能としている。又、センター主催の研修への参加も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居の際は自宅で愛用されているものをできるだけ持ち込んでもらうように、家族と十分に相談・情報交換を行い、住み替えによるダメージを軽減、防止することに努めている。また、入院以外で他の事業所に移った事例は無いが、入院においてはスタッフが面会に行くことでダメージの緩和に努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>接遇研修を実施しており、記録に名前は載せず、イニシャルで行っている。プライバシーを損ねる対応はしていない。新規職員採用時には、事業所として必ず個人情報に関する誓約、同意書ももらっている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常生活において利用者の残存能力を損なわないようお茶の時間、入浴、献立、外出、行事参加などの機会に利用者にもその都度声かけをする事により、選んでもらったり、利用者の参加できる場面を作っている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>集団的介護、押し付けの介護を行わず、利用者本位で一人一人のペースを大切にしている。起床時間、就寝時間など、その人にあつた時間で対応している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理美容のお店の選択は自由だが、ほとんどの方はホームに来てくれることを望んでいるため、本院の美容室の美容師が毎月訪問し理美容サービスを行っている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事を五感で楽しんでもらうよう施設中央部にオープンキッチンを設けており、利用者の残存能力の維持、啓発も意識し利用者の状態(体調)を配慮した上で準備や片づけを行っている。一人ひとりの好みに合わせており、また、食事量に応じ、食器の大きさや盛り付けを変えている。また、あすなる農園で収穫された野菜を献立に取り入れている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在、お酒・タバコを好む方はいないが、おやつや飲み物など本人の好むものを提供し楽しんで頂いている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	生活アセスメントシートに排泄チェックが記入されており、一目で把握できるようになっており、一人一人の排泄パターンに応じトイレ誘導などを行い、日中はなるべくオムツの使用を避けるように支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	敷地内の温泉井戸から直接天然温泉を引いており、入浴をできるだけ楽しんでいただけよう努めている。また、入浴については一人ひとりの希望にそって行うようになっている。困難な場合はこちらから声がけを行い勧めている。 (週3回以上入浴できるよう支援)		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	落ち着ける場や安心できる場を一緒に見つけ、支援している。生活習慣を把握し照明の落とし方等の支援をしている。また、寝付けないうきには、温かい飲み物を勧めたり、スタッフが一緒に過ごすことで安眠されるよう支援している。また、日中適度な運動(散歩、家事作業等)をすることで安眠に結び付けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ライフヒストリーを参考にし、利用者の趣味、楽しみ等を生かし支援している。 (センター方式A～Bシート使用) 週に1回音楽療法を実施しており、唱歌、ナツメロ、リズム体操などを楽しみにされ、笑顔が増えたり、起きている時間が増えたりなど表情に変化が見られるようになっている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持つことの大切さを理解している。 自己管理できる利用者には、本人の希望に応じ所持していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	自然環境が非常に良い立地なので、気分転換や歩行訓練も兼ね天気の良い日は、なるべく外で日光浴、散歩に出かけ四季を感じてもらおう努めている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族へ本人の意向を伝え、支援している。当施設は郊外にあるためすぐに行ける環境にないが、できるだけ意向に沿うよう努めている。敷地内公園への散歩や行事参加、外食(回転寿司)等外出支援をしている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時は日常的に支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	全室個室であり、面会時間に制限がない為、お部屋で過ごされることも気兼ねなくでき、共有の和室やソファセット・中庭等も利用されており、明るく開放的で気軽に面会されている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会及びマニュアル等で身体拘束をしない取り組みをしている。又、過去にも身体拘束をしていない。苦小牧市グループホーム連絡会管理者研修による市内の身体拘束と虐待の実例報告の研修にも参加している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関にセンサーを設置しており、日中は施錠せず自由に出入りされている。夜間は施錠している。(PM7:00~AM7:00まで施錠)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	朝食、昼食、夕食、お茶の時間等を通じて自然な形で安全確認をしており、なるべくスタッフが一緒に過ごすことにより、利用者の状況把握に努めている。 また厨房がリビングの中央にオープンキッチン形式にあるので、作業を行いながらさりげなく見守る事ができる。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	アセスメントシートにより危険物となるものが人により違うため、爪切り、ハサミなどはその人に応じた対応をとっている。 洗剤、漂白剤、包丁などは危険性が高い為、スタッフが管理し施錠し保管している。 施設内の安全チェックシートを作成し毎日確認している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	些細な事例についてもヒヤリハット・転倒報告・事故報告を行うようにしており、転倒事故発生後はカンファレンスを実施し利用者の状況、ケアプラン等も考慮し事故防止に取り組んでいる。 又、スタッフ全員に対し、危険予知訓練等の研修を行いリスクマネジメントの意識づけを行っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全スタッフが普通救命講習の受講をしている。又、マニュアルもあり、実行している。 急変時対応セミナー、研修にも参加し、全スタッフに伝達、講習を行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	総合訓練は年2度行っておりそのうち1回は市防災課、自衛隊、警察等を含めた防災対策訓練として実際の避難を行っている。又、普段は非常口、玄関等の避難通路の確保と緊急物品の用意、マニュアル等を整備している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	契約時及びケアプランを提示した際(変更の都度)に説明を行うようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	申し送り時に情報を共有し、記録に記入している。気づいた際は看護師に報告し、対応している。又、毎日の健康チェックにより状態を把握している。異常時には速やかに外来受診をし、家族への報告も行っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別記録に〈身体・健康医療情報〉を添付し、スタッフ間で情報共有している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	安易に下剤等に頼らず自ら排便できるよう、飲み物や食べ物を工夫している。(ヤクルト、ヨーグルト、乳製品、さつまいもなど)あすなる周辺の散歩などの運動を行い便秘予防を行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	就寝時に声がけし、義歯の洗浄、うがい、歯磨きの支援を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	チェック表を記入し一人ひとりの水分補給を把握している。又、お茶の時間等を設けている。又、毎日の献立については設置者医療機関の管理栄養士がチェックを行っている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防の研修に参加し、マニュアルを作成して看護師の指導の下に実行している。 インフルエンザ→予防接種励行 疥癬→シーツ交換(週一回以上)・布団干し ノロウイルス→手洗いの徹底		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日食事担当者の状態チェック表(腹痛、下痢、発熱、爪等)の記載及び、料理前の台所点検表に基づいてチェックしている。また、月に1度病院の管理栄養士により食中毒防止、感染予防の観点から台所内等の施設点検を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関アプローチにプランターや鳥の餌台を置き、親しみやすく明るい玄関まわりにしている。また、アプローチには椅子とテーブル、ベンチを設置しており、くつろいだ語らいの場となっている。今春よりホーム入り口に畑を作り、野菜(トマト、キュウリ、えんどう豆、ズッキーニ)の収穫も楽しまれている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁には、利用者で作成した季節ごとの貼り絵や折り紙を飾っている。家具は一般家庭で使用されているもので、入居者の体に合った落ち着いた色彩のものをそろえている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者がその場に合った「居場所」、好みの場所が選べるように居間、カウンター、和室等数箇所の場所を設置している。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居宅面積が基準の7.43㎡に対し2倍以上の16.2㎡あり、本人の状態に合わせた家具(鏡台、タンス、テーブル、冷蔵庫、椅子など)や好みのもを自由に置け居心地よく過ごせるよう工夫している。また、備え付けの家具の中央部は仏壇や家族写真が飾る事ができるよう配慮した構造になっている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計・湿度計を2カ所に設置し、定期的に換気を行い、各居室には湿度センサーを設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>建物内はすべてバリアフリーになっている。又、リビングの壁まわりやトイレ内、浴室内には、手すりを設置している。</p>		
<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>各居室前にネームプレートをつけ、夜間のトイレはライトアップしている。また、日めくりカレンダー、時計を設置している。</p>		
<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>87 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>リビングから見える玄関アプローチに花を植えたり、鳥のエサ台やベンチ・椅子を設置し、天気の良い日は水やりや手入れなどできるよう工夫している。また、畑作りも行っている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない</p> <p>基本情報はセンター方式のアセスメントシート、家族からの情報によるもので、その他利用者の思いを聞ける時間をつくったり、日々の生活の表情や口調から、本人の意向をつかむよう努めている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない</p> <p>食事やお茶の時間などを利用して、ゆっくりのんびりと会話したりして過ごすこと。また、家事作業(調理、洗濯物をたたむ等)や散歩時、畑仕事時に会話をしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>常に利用者のペースに合わせているため、のんびりゆったりとした時間が流れている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>できる・できないシートの活用により個人の状態を把握し支援している。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>散歩、行事参加などできるだけ希望に沿えるよう努めている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>協力医療機関が近くにあり、毎日の健康チェックによりすぐに対応しているため、特に不安等の相談はない。また、皮膚科に往診して頂いている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>日々の申し送りやケアカンファレンスによりスタッフ間で情報の共有に努め、状況の把握、要望にすぐに対応することにより、苦情等は受けていない。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない</p> <p>要望等を受けた場合はすぐに書類に書き留め、対応している。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように</p> <p>②数日に1回程度</p> <p>③たまに</p> <p>④ほとんどない</p>	郊外にホームがあるため、訪ねて来る機会がない。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている</p> <p>②少しずつ増えている</p> <p>③あまり増えていない</p> <p>④全くない</p>	運営推進会議に町内会長等町内会役員が参加したことでグループホームについての理解が少しずつ深まり、町内敬老会等との交流が始まってきた。
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が</p> <p>②職員の2/3くらいが</p> <p>③職員の1/3くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p>	職員同士の風通しよいコミュニケーションにより、互いに助け合い、協力しながら働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が</p> <p>②利用者の2/3くらいが</p> <p>③利用者の1/3くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p>	本院の管理職職員の協力もあり利用者サービスは専門的な見地からも行っていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が</p> <p>②家族等の2/3くらいが</p> <p>③家族等の1/3くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p>	設置者が医療機関であることもあり安心感を持っていただいていると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・豊かな自然を利用した園芸(野菜作り、花作り)を行っている。
- ・昨年12月からは毎週水曜日に音楽療法を実施し、童謡、唱歌、ナツメロ、民謡を唄ったり、リズム体操により手足の運動を行っている。歌ったり楽器(すず)を鳴らす事で楽しみを持たれ表情が豊かになり、会話が増えている。